

4番（小川義昭君）

安心しました。これも後での質問とのちょっとつながりが出てきますので、そこら辺のところも質問の中で答弁が抜けておられましたので、ちょっと確認いたしました。

ちまたでは、何か作野市長は文化に対する認識が余りないんじゃないかなということも聞いておるんですけども、今の答弁をお聞きしまして大変私も安心いたしました。

それでは、3点目の質問は、文化創生都市白山の宣言の後、どのような具体的な取り組みを行ってきたかをお伺いいたします。

私は、平成21年9月議会で、「文化創生都市宣言は、文化を生かした産業振興、観光振興、市民への文化意識の醸成を基調としたまちづくりの推進をうたっており、文化を振興することは、まちの魅力を高め、発信する有力な要素であり、市民力やまちの経済力の基盤である。まちの経済力、農業、工業、商業など産業の振興は、豊かな文化をはぐくむ原動力でもある。文化の力と産業の力は、本市のまちづくりの両輪どころか表裏一体との認識が必要である。この一体性の認識と一体施策、一体組織については、まだまだ議論や認識が不十分であり、いま一步を踏み出す気構えや迫力が感じられない。金沢市の文化政策とまちの活力や産業政策は、両輪どころかその表裏一体性は産業団体、民間企業、市民を取り込み、行政組織をも含む展開体制となっております。行政や人口、文化資源の規模など格段の違いはありますが、本市においても市民の議論を喚起しながらこの両輪・一体施策へ踏み込むことが肝要と考える」とただしたのに対し、角前市長は、「文化は人の心を豊かにし、都市の力、エネルギーとなる。文化のないところに人は育たない。文化のないところには企業も人も集まらない」と述べつつ、さらに、「本市では、それぞれの地域に根づく多様な文化土壌があり、豊かな自然環境にも恵まれ、古くより農・工・商均衡ある発展を遂げてきた。長い歴史の中で培われた地域文化と多様な地域資源を生かして魅力と輝きのある文化創生都市を築くため、文化協会や――これ、今ほど市長が一本化されたということを申しましたけども、非常にいいことだと思います――農業・商工会関係などの地域団体の協力も得ながら文化と産業が共存するまちづくりに努める」との答弁でした。

しかし、近年、行財政改革・財政健全化政策の名分のもとで地域の祭りや民俗芸能に対する公共支援が削除、減額され、規模の縮小や継続を断念する地区があるなど、また、平成6年に制定された島清恋愛文学賞の廃止も検討されているとのことであります。文化とまちや産業の活力の両輪性どころか、合併後の本市総合計画の柱に据えたまちづくりの理念をも揺るがしかねないとの危惧も感じます。

行政と地域住民の対話集会などでも不安や疑問の声が聞かれます。歴史文化の継承に対する自助努力を断絶させず、地域の活力創生に資することは重要かと考えます。

改めて文化創生都市白山宣言後の取り組み及び今後の施策について市長にお伺いいたします。